

1. 研究課題名：アジア地域における持続可能な消費・生産パターン定着のための政策デザインと評価

2. 研究代表者氏名及び所属：平尾 雅彦
(東京大学大学院工学系研究科)



3. 研究実施期間：平成 28～32 年度

4. 研究の趣旨・概要

2015 年に国連で合意された持続可能な開発目標 (SDGs) では、持続可能な消費と生産 (SCP) パターンの実現が 1 つの目標になっている。アジア地域では、先進国、新興国、開発途上国が混在しており、先進国では、将来世代にわたって持続可能な地球 1 個分の暮らしのモデルケースとなる消費と生産の構造を構築することが求められ、新興国や開発途上国では、経済成長から効率性追求、さらにニーズの転換と充足性向上へと優先課題を早期に移行し、エネルギー・資源利用効率の向上を通じて公正で公平な循環型・低炭素型社会を構築することが求められる。本研究では、「消費と生産の相互連携の強化」、「経営者や投資家、生活者などの多様な関係者の活動」、「消費における充足性の向上のための政策デザイン」、「SDGs を梃子にした SCP 政策の実施」をテーマとし、異なる学術分野からのアプローチを統合することによって、日本およびアジア各国の SCP パターンへの転換を実現する政策デザインに貢献する。

5. 研究項目及び実施体制

- ① 全体の統括と消費と生産の関連性を強化した政策デザインによる温室効果ガス排出抑制と資源循環方策
(東京大学、大阪大学、産業技術総合研究所、立命館大学)
- ② 多様なステークホルダーの活動・原動力に根ざしたアジアの消費・生産パターンの転換方策
(国立環境研究所、神戸大学)
- ③ アジアにおける資源環境制約下のニーズ充足を目指す充足性アプローチへの政策転換
(地球環境戦略研究機関、九州大学、南山大学)
- ④ 持続可能な開発目標 (SDGs) からみた持続可能な消費と生産のガバナンス
(慶應義塾大学、国際連合大学)

6. 研究のイメージ

効率性と充足性の向上による 持続可能な消費と生産(SCP)パターン定着のための 政策パッケージのデザイン

アジア地域の消費と生産の環境負荷増大スパイラルを
持続可能な地球1個分の暮らしに抑える

- 経済モデルや環境影響評価手法等を統合的に活用する評価モデル
 - 科学的根拠に基づいた政策立案
 - 各国との環境政策対話での活用
- 日本・アジア各国の産業・金融へのSCP指向ビジネスモデルの提案
 - グローバルおよび各国研究グループとのネットワークの強化
 - 国際的なSCP推進活動への貢献

効率性と充足性の向上



国・地域レベルでの持続可能な消費と生産(SCP)を軸とした
持続可能な開発目標(SDGs)の設定と実施